

## 指定管理業務評価結果書

### 1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	鶴山公園
(2) 指定管理者	所在地 津山市山下97番地の1 名 称 公益社団法人津山市観光協会 代表者 会長 竹内佑宜
(3) 公の施設の所管部署	津山市 都市建設部 公園緑地課
(4) 指定期間	平成 24 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
(5) 評価対象期間	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日

### 2 施設の利用状況

(1) 利用者数等	公園入園者数 124,997 人 ( 前年度 146,575 人 ) 備中櫻入館者数 54,943 人
(2) 事業の内容	・津山さくらまつり(4月1日~15日)62,561人 ・花火の観覧席 約400人 ・秋の津山城ご当地グルメフェスティバル&美作国大茶華会 約13,000人 ・元旦日の出イベント 約200人 ・津山城お雛祭り 1,901人

### 3 収支の状況

(1) 収入 (指定管理者の収入)	総額 59,008 千円 ( 前年度 57,329 千円 ) 利用料金収入 28,981 千円 指定管理料 19,131 千円 事業収入 2,895 千円 借入金 5,000 千円 繰入金 3,000 千円
(2) 支出 (指定管理者の支出)	総額 59,008 千円 ( 前年度 57,329 千円 ) 主な支出 人件費 33,989 千円 光熱水費 3,229 千円 修繕・消耗品費等 1,630 千円 委託料(施設管理) 5,754 千円 事業費(利用促進) 8,942 千円 負担金・公租公課 3,804 千円 その他(借入金返金) 1,660 千円

#### 4 総合評価結果

(1) アンケート調査等の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢層は60歳代が一番多く中高年者が圧倒的多数を占めている。</li> <li>・県外者は関西圏が多いが関東・北陸・九州かも年々多くなっている。</li> <li>・友人や家族連れが目立った。</li> <li>・年間を通じて、全国100名城やお城めぐりなどのツアー客が増えている。</li> <li>・接客・安全性・施設整備もよかったです。ごみ箱がないのが良い。</li> <li>・園内城跡のガイドが常時ほしい。建物跡の案内表示がない。</li> <li>・急な階段に手すりを設置してほしい。</li> </ul> <p>以上のようなアンケート結果であった。</p>
(2) 指定管理者の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は4月のさくらまつりの大幅な入園者減により運営財源に苦慮した。</li> <li>・年間の管理運営については平年と同様の管理水準をクリアできた。</li> <li>・本丸の「芝桜」も年々成長し見栄えが増し、これから期待できる。</li> <li>・施設整備も裏手の二の丸から本丸に上る階段が整備され、入園者の評判も好評である。</li> <li>・今後も入園者の増加を図るため、イベント開催や一般市民の利用促進に努力し、春の「津山さくらまつり」のみでなく紅葉の秋を楽しむ行事として「津山お城まつり」を実施したが、今後も秋のイベントとして定着させ、入園者の増加を図っていく。</li> <li>・今年も冬場には三の丸のさくらに寒肥を施し樹勢の回復を図った。</li> </ul>
(3) 市の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の管理運営、設備の維持管理業務は概ね実施されている。</li> <li>・鶴山公園は城跡であり、石段・石垣等存在する中で、事故防止や防災に取り組み、緊急時の連絡体制等を整え、事故防止に努めている。</li> <li>・入園者数は春のさくらまつり期間中の悪天候が影響し、年間入園者数は減少した。</li> <li>・施設利用を促進するため様々な自主事業に取り組み、宣伝広報に努め入園者数の増加を図っているが、事業費の増加に伴い支出が増えた結果となっている。</li> <li>・収支計画は事業計画に基づき実施されているが、利用料収入が減少し、運営経費が増加している。</li> <li>・日常の管理運営業務に励まれている。収支計画においては収入の増加を図りつつ、運営経費の削減を図るよう、更なる効率的な取り組みを期待する。</li> </ul>